

「グロウフィールドワーク」って？

「グロウとは英語で“成長する (grow)”の意味

「グロウフィールドワーク」は、仲間や社会人との対話から、社会におけるルール・マナー、生き方・生きがいについて考える学びである。将来の自分の姿を描き、今後の自己の生き方を考えることを目的に、同校が2年生の総合的な学習の時間に行っている学習活動。平成21年度は10回目になる。

この活動は、約半年間、学校外からのゲストの話を聞いて今後の見通しをたてる第1段階、社会人を直接職場に訪ねて人生で大切にしている事を聞き、自分の夢や将来への考えを深めるフィールドワークを行う第2段階、そして第3段階で自分の生き方ややりたい自分像に向けて考えを明確にし、「なりたい自分宣言」をまとめる。

「グロウ座談会」に参加して

2月23日(火)の午後、北海道教育大学附属札幌中学校の体育館には150名を超す生徒、保護者・来校者が集まった。2年生(当時)が昨年の秋以来進めてきた「グロウ」のまとめを発表する日である。

18のグループに分かれて車座に着席した。1人約3分のスピーチに続いて、「なりたい自分になるためには…(私の理想の姿の実現には)」というテーマで発表し、話し合いを行い、来校ゲストが意見や感想を述べるなどした。

スピーチで、生徒は生きがいや生き方に対する自分の考え、その考えの変化、その変化の理由など「グロウ」で学んだプロセスを「マイグロウ」としてA3の用紙に図式するなどして発表した。途中で生徒同士が進行方法などについて「こうしたらどう?」とアドバイスしあうなど、同席した大人たちにも理解してもらいたいという意欲が感じられ

る発表であった。

参加者のお一人で北海道国際課の主任、向井恵里奈さんは「社会人の話からそれぞれが何かを学び取って、真剣に自分の将来について考え伝えようとしている姿に感激しました」と、感想を話されていた。

14歳、将来を考えるきっかけに

プログラム第2段階の社会人の職場への訪問にあたっては、訪問の申込みやアポイント取りを電話で自分で行うなど主体的に取り組むことを体験した。

グロウがスタートした時自分の将来について何も考えていなかったし、将来はまだ不透明だと発表した生徒もいた。14歳にとって将来が曖昧であっても何も不思議ではない。グロウはそうしたまっさらな心と頭になにかが芽生えるきっかけになるのだろう。急ぐことはない。学び、興味や関心を深め、日々経験して選択肢を増やして欲しい。何度かの「決め時」を経て、確固とした自分の姿が見えてくるのだから。



「グロウ」座談会(附属中学校で)



北方圏センターを訪ねた2年生たち

イベントレポート

「貧困のない社会づくりを目指して」が開催された ムハマド・ユヌスさんの講演

札幌で、グラミン銀行総裁



ムハマド・ユヌスさんの「ユヌス・センター」のウェブサイトから(トップページ <http://www.yunuscentre.org/>)

バングラデシュの大学教授だったユヌスさんは1983年、貧困救済、主に農村地帯の女性たちの起業を支援する目的で、グラミン銀行を創設しました。その貧困撲滅を目指す活動に対して2006年にノーベル平和賞が授与されています。初の来道でもあり、会場に入りきれないほど詰めかけた人々がグラミン銀行の活動やマイクロファイナンスについての話に熱心に聞き入っていた。

グラミン銀行の考え方

1971年の独立後のバングラデシュで、個人の小規模な事業立ち上げに資金を提供することから始まったのが無担保、少額融資(マイクロファイナンスと呼ばれる)のグラミン銀行であった。例えば、竹駕籠を作る等、自宅で、小さな仕事を始めようとする女性たちへの融資が90%を占めるが、彼女たちの返済が滞ることはないという。

「貧困は平和を脅かす」

基調講演後のパネルディスカッションでは、「グラミン銀行」の低い貸し倒れ率等について多くの質問があった。ユヌスさんは、「貧困は個人が原因ではなく、経済・社会のシステム、政策が原因」、「経済活動は単に利益を追求するだけのものではないのか?」、「グラミン銀行の貸し付けはビジネスで、ギフト(贈り物)ではなくローン(貸し付け)」、「伝統的な銀行とは違ってグラミン銀行は主に女性を対象に、持続可能な利益をあげることを目指して、農村や地方で貸し付けを行っている」など、また、最近では社会的貢献に力を入れている大手食品企業等と協働して子どもたちの健康保持を目指す「ソーシャルビジネス」に力を入れているなど、ひとつひとつの質問に丁寧に答えていた。

「夢は、貧困博物館を作ること」

「私の夢はホームレスやストリートチルドレンのいない社会をつくること」。現実の社会に貧困が無くなって、博物館に行かねば貧困がどのようなものかわからない、そんな世の中がくることを願っていると、終始静かな語り口で深い思いを語ってくれた。

(2009年9月29日、道新ホール、札幌市。北海道大学、北海道新聞社共催)

(社)北方圏センターの沿革と名称変更(予定)のお知らせ

昭和46(1971)年、「第三期北海道総合開発計画」に北方圏構想が盛り込まれました。この構想は、気候風土を同じくする北歐、カナダなどとの交流を通じて、北海道の産業経済や生活・文化の向上を図り、北国の風土に根ざした地域づくりを進めることを目的とする道民運動でした。「社団法人北方圏センター」は、この構想の推進母体として昭和53年(’78)に発足しました。

時代を経て、北方圏諸国との交流は現在もお当センターの重要な事業の一つですが、平成7(’95)年に北方圏という地域に限定しない国際交流団体に衣替えをしたこと、平成8(’96)年4月には、国際協力機構(JICA)設置の「国際センター」(札幌・帯広)に係わる国際協力業務の委託を受けたこと、さらには、平成10(’98)年、自治大臣(現総務大臣)から北海道の総合的・中核的な国際交流団体として「地域国際化協会」の認定を受けたことなどから、当センターの役割・機能や活動の実態に即した新名称を検討してきましたが、この度の当センターの総会(平成22年5月20日)において、平成23年度の新公益法人への移行を目的として、名称を「北海道国際交流・協力総合センター(仮称)」に改めることが承認されました。



Northern Regions Center (NRC)

社団法人 北方圏センター

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館

発行日: 2010年6月7日

TEL.011(221)7840 FAX.011(221)7845 <http://www.nrc.or.jp>

E-mail address: pbl@nrc.or.jp (出版部) intc@nrc.or.jp (国際協力部)

印刷: 岩橋印刷株式会社